

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問調査)

#### 4 本校の実施状況

|      |    |      |    |      |    |      |
|------|----|------|----|------|----|------|
| 第4学年 | 国語 | 133人 | 算数 | 133人 | 理科 | 133人 |
| 第5学年 | 国語 | 126人 | 算数 | 126人 | 理科 | 126人 |

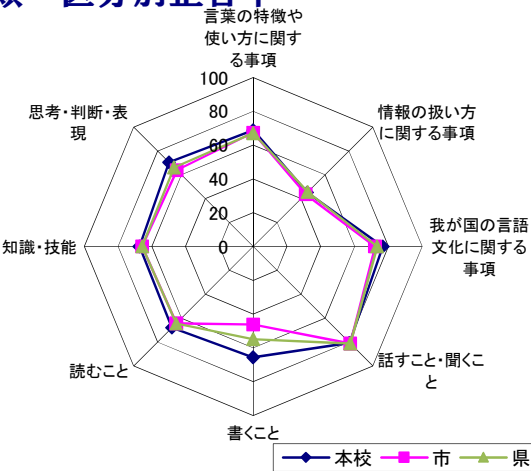
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 68.8 | 67.4 | 67.1 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 45.1 | 43.8 | 45.7 |
|     | 我が国の言語文化にに関する事項  | 76.7 | 72.1 | 73.4 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 80.6 | 81.2 | 81.2 |
|     | 書くこと             | 65.6 | 46.2 | 54.9 |
|     | 読むこと             | 67.9 | 64.3 | 64.5 |
| 観点  | 知識・技能            | 67.3 | 65.7 | 65.7 |
|     | 思考・判断・表現         | 70.5 | 64.0 | 66.3 |



★指導の工夫と改善

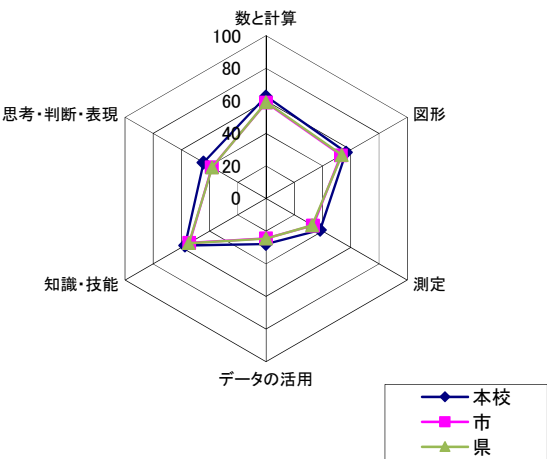
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                              | 今後の指導の重点                                                                                                                                                |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 平均正答率は県の平均を1.7ポイント上回っている。<br>○漢字の読み、主語と述語、ローマ字の読み方の問題については、県の正答率を平均10ポイント以上上回っている。特に、主語と述語の問題については、県の正答率を 15ポイント以上上回っている。<br>●漢字の書きの問題については、3問中2問で県の平均を下回っている。      | ・漢字の読み書きについては、これまでの学習を継続し、定着を図る。漢字練習やミニテストだけでなく、文章の中でも漢字を使って書けるような課題を工夫し、漢字を書く力の向上につなげていく。<br>・ローマ字については、授業内に1人1台端末を使用する際、積極的にローマ字入力をするように、引き続き働きかけていく。 |
| 情報の扱い方にに関する事項    | 平均正答率は県の平均を0.6ポイント下回っている。<br>●国語辞典の使い方は理解しているが、短い文章を読み、文章の内容に合った意味を選ぶことに課題が見られる。                                                                                    | ・1つの語句でも様々な意味があることに注目させ、文の意味に合う正しい言葉の意味を選択できるよう定着を図る。さらに、物語文や説明文の読み取りの際には、その言葉の前後の言葉の意味をよく考えることで、内容を深く理解できるような授業展開を行う。                                  |
| 我が国の言語文化にに関する事項  | 平均正答率は県の平均を3.3ポイント上回っている。<br>○漢字のへん、つくりに関する正答率は76.7%であり、基礎的な学習内容の定着が見られる。新出漢字の学習の際、読み方、筆順、例文を確認していることが定着につながっていると考えられる。                                             | ・漢字辞典や漢字ドリルを積極的に活用し、漢字の組み立てと意味について理解を深められるようにする。さらに、同じ部首の漢字を集めるなど、学習活動や自主学習における課題の工夫を行う。                                                                |
| 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は県の平均を0.6ポイント下回っている。<br>○相手に伝わるように自分の意見を理由を挙げながら話す問題では、県の平均を3.2ポイント上回っており、話し合いのテーマに沿って自分の考えと内容を伝えることができています。<br>●話し合いの内容は聞き取ることができたが、司会の役割について理解が不十分だったと考えられる。 | ・話し合い活動の際に、司会の役割を経験させ、参加者の発言を整理しながら話し合いを進める力を身に付けられるようにする。<br>・国語の授業を中心に、他教科での話し合い活動や学級活動などの機会も活用し、話す・聞くことについての学びを深める。                                  |
| 書くこと             | 平均正答率は県の平均を10.7ポイント上回っている。<br>○選択肢からよいと思うことを選び、その根拠を、自分の考えを明確にして書くことができています。<br>○指定された文章の長さで書くことや、段落の役割を理解し、指定された段落構成で書くことができています。                                  | ・作文指導の際、条件を提示して書く活動を取り入れる。段落構成、「始め・中・終わり」という組み立てや文字数に意識して取り組むようにする。また、継続的な指導を行う。                                                                        |
| 読むこと             | 平均正答率は県の平均を3.4ポイント上回っている。<br>○物語文については、ほとんどの問題において県の平均を上回っている。登場人物の気持ちや場面の様子をしっかりと捉えて、文章を読み取ることができています。<br>●説明文の中で、指示語が何を示しているのかを読み取ることに課題が見られる。                    | ・説明文において、指示語が何を示しているのかを線を引くなどして指示語の内容を確認する活動を行う。さらに、国語だけではなく、他教科の学習においても指示語に着目しながら内容を捉える力を身に付ける。                                                        |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 62.7 | 58.9 | 59.2 |
|     | 図形       | 56.6 | 53.0 | 53.7 |
|     | 測定       | 38.4 | 33.1 | 32.6 |
|     | データの活用   | 27.8 | 24.4 | 24.6 |
| 観点  | 知識・技能    | 57.5 | 54.3 | 54.7 |
|     | 思考・判断・表現 | 44.3 | 38.5 | 38.3 |



★指導の工夫と改善

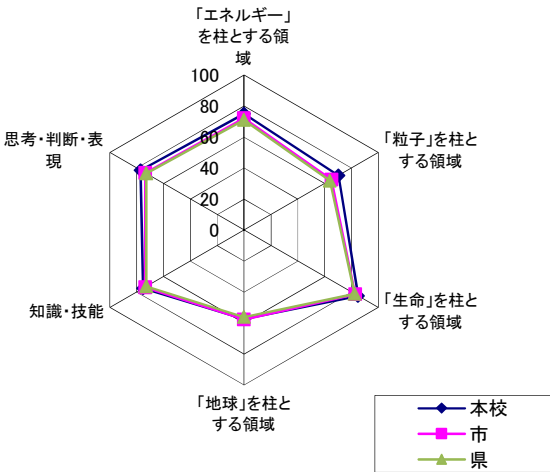
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                           | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は県の平均を3.5ポイント上回っている。<br>○数量の関係について口を使って式に表す方法について、平均正答率が8割を超え、理解できていると考える。<br>●かけ算の計算のしかたを説明する問題の正答率は10.5%であり、県の平均を上回るものの課題が見られる。また、式の意味を正しくとらえ、言葉で説明する問題についても、平均正答率は26.3%と課題がある。<br>●整数と小数が混ざった計算をする問題の平均正答率は、5割程度に留まっている。 | ・計算の仕方を考えたり、問題場面と図や式を関連付けて説明したりする学習を、低学年のうちから丁寧に指導していく必要がある。その際、式に含まれる数字が何を意味しているのか、計算をして何を求めているのかを明確に示したり、説明し合ったりする活動を取り入れていく。<br>・整数と小数が混ざった計算については、位を揃えたり繰り下がりに注意したりして、正確に計算できるよう指導していく。                                        |
| 図形     | 平均正答率は県の平均を2.9ポイント上回っている。<br>○二等辺三角形の性質を理解しているかをみる問題では、県の平均正答率を5.5ポイント上回っている。<br>●円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、県の平均正答率も38.9ポイント下回っている。                                                                                                 | ・コンパスを使って作図する活動を授業等に取り入れながら、学んだ知識をより確実なものにさせていく必要があると考えられる。<br>・円の性質を改めて確認していく必要がある。家庭と学校が連携し、家庭学習での復習や授業中のAIDリルを活用し、繰り返し学習することで基礎・基本の定着を図る。                                                                                       |
| 測定     | 平均正答率は県の平均を5.8ポイント上回っている。<br>○地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求める問題では、50.4%の平均正答率であり県の平均正答率を6.5ポイント上回っている。<br>●はかりの表している重さを読む問題は、平均正答率26.3%、重さの大小を比較する問題の平均正答率は33.1%と重さの問題に課題が見られる。                                                        | ・測定の学習をする際には、時間や長さ、重さを全員が十分体験できるよう工夫し、実感を伴った理解となるようにしていきたい。また、普段の学校生活でも意識させ、実生活に生かそうとする態度も育みたい。はかりが表している重さを読む問題は、はかりの1目盛りがいくつを表すのかが読み取れなかったことが原因だと考えられる。1目盛りの表す数を読み取る学習を各学年で丁寧に行う。<br>・単位換算(単位変換)について、量感を養いながら、正確に捉える指導を引き続き進めていく。 |
| データの活用 | 平均正答率は県の平均を3.2ポイント上回っている。<br>●棒グラフから示された値を読み取る問題では、平均正答率が52.6%と5割程度に留まっている。<br>●2つのグラフを比較し、分かることを考え答える問題の正答率は15.8%と県の平均を上回るものの、低い正答率となった。                                                                                        | ・今後も1目盛りが表す値を確認しグラフを読むということを丁寧に指導していく。さらに、グラフから分かることを話し合ったりノートに書いたりする学習を取り入れる必要がある。また、自分たちでデータを集め、グラフに表して考察したり、複数のグラフを比べて分かることを話し合ったりする活動を積極的に取り入れることで、本領域の見方・考え方を高められるようにしていく。                                                    |
|        |                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                    |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 75.0 | 72.1 | 71.0 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 70.3 | 65.2 | 63.9 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 85.0 | 82.8 | 82.4 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 57.4 | 57.7 | 56.2 |
| 観点  | 知識・技能          | 75.3 | 73.8 | 72.8 |
|     | 思考・判断・表現       | 77.1 | 73.7 | 72.8 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                   | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                              |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 平均正答率は県の平均を4.0ポイント上回っている。<br>○磁石の性質のうちおもちゃに利用した性質を推測することができるかどうかの問題では県の平均を10.3ポイント上回った。<br>●日光を集めたときの明るさと温かさについて理解しているかどうかの問題では、正答率が51.9%と課題が見られる。       | ・本校が行っている教科担任制の授業により、理科専科の教員が実験の準備、考察等の教材研究を十分に行っているため、児童にとって分かりやすい理科の授業が展開されていると考えられる。一方で、実験を通じた実体験には積極的に取り組んだが、その体験から分かったことが知識として定着しなかった。そのため結果を知るだけでなく、どうしてそのような結果になるのかを予想し、体験させ考察する活動を数多く取り入れていく。 |
| 「粒子」を柱とする領域    | 平均正答率は県の平均を6.4ポイント上回っている。<br>○同じ体積でも、ものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考えることができるかどうかの問題では、県の平均を9ポイント上回っている。<br>●しかし、上記の問題は、正答率は50.4%と課題であるとも考えられる。              | ・学校で行われた実験の結果(同じ体積でも、ものの種類によって重さが違う。)ということは正しく理解しているが、この結果を表から正しく読み取ることができなかったと考えられる。児童の生活の中で体験する科学的事象が以前に比べ少なくなっている結果だと考えられる。学校、保護者が連携し、学校生活や家庭生活の中で、児童の体験活動を増やしていく。                                 |
| 「生命」を柱とする領域    | 平均正答率は県の平均を2.6ポイント上回っている。<br>○植物や昆虫の育ち方に関する問題では、ほとんどの問題で県の平均を5ポイント以上上回っている。<br>●昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いを捉えることのできるかの問題では、県の平均をおよそ4ポイント下回っている。記述式問題に課題があると考えられる。 | ・植物の一生を定期的に観察して考察する問題がよくできていたと考えられる。ここでは学校園や教室で行なった実体験を通し、動植物のつくりや特徴、成長の過程を観察しながら考察することで学習内容が十分に身に付いた。理科の授業でも、授業のまとめや振り返りを児童自身が自分の言葉でノート等に記述する活動を積極的に取り入れていく。                                         |
| 「地球」を柱とする領域    | 平均正答率は県の平均を1.2ポイント上回っている。<br>○方位磁針の正しい使い方に関する問題では、県の平均をおよそ7ポイント上回っている。<br>●太陽が動く方位を理解しているかに関する問題では、県の平均をおよそ4ポイント下回っており、正答率が51.1%と課題が見られる。                | ・理科のみならず他教科の授業でも実物を使い方位磁針の扱い方を十分に指導した結果が表れている。<br>・児童の生活の中で体験する科学的事象と、授業の中で理解した知識の結び付きが浅いと考えられる。今後、普段から生活の中で体験する科学的事象に気付くような活動を意図的に増やし、児童の知識と結びつき記憶に残るような学習活動を取り入れていく。                                |

## 宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

#### 学習への興味について

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の肯定的回答の割合が県平均を上回っていた。学習に対して自分自身で取り組み、課題を解決しようとする意識が見られる。また、分からないことをそのままにせず、本やインターネットを活用して最後まで取り組もうとする意欲も感じられる。今後も1人1台端末などを効果的に活用しながら、主体的に取り組む意欲を高められるようにしていく。

●「難しい問題に出会うと、よりやる気がでる」の肯定的回答の割合がやや低かった。応用的な問題になると無回答になってしまう児童もいることが伺える。日頃から課題解決への姿勢を定着させ、難しいと思うことを前向きに取り組めるよう指導をしていく。

#### 授業の様子について

○「授業を集中して受けている」の肯定的回答の割合が県平均を上回っており、日頃の授業の様子からも授業に集中して取り組み、学習に前向きな姿勢が感じられる。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定的回答の割合が高い。本校の研究の「学び合い・伝え合い」に重きを置いて取り組み、児童自身も話し合いを通して学ぶことができていると伺える。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「自分の行動や発言に自信をもっている。」の肯定的回答の割合が県平均よりも低かった。学級全体場で発表することに苦手意識のある児童が多い。まずは上記にある話し合いの活動をより充実させ、話すことに慣れるようにするとともに、自分たちの考えを発表しやすい雰囲気づくりに努めていく。

#### 家庭学習について

○「家で、学校の宿題をしている。」の肯定的回答の割合が96.3%で県平均を上回っている。宿題については、日頃の様子を見ても良好な状況であり、引き続き家庭学習が定着できるよう促していく。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」の肯定的回答の割合が県の平均よりも6ポイント以上低かった。宿題では復習になる課題を出しているが、それ以外にも児童自身が苦手な部分を主体的に取り組めるよう復習の重要性を伝えていきたい。

#### 生活の様子と学習の関係について

○「人と話すことは楽しい」「誰に対しても思いやりの心をもってせっている」の肯定的回答の割合が高く、友達との良好な人間関係づくりができている様子が伺える。また、「将来の夢や目標をもっている」という質問の肯定的回答の割合も高く、今後も学校における様々な活動に対して、目標をもって取り組めるように支援していきたい。

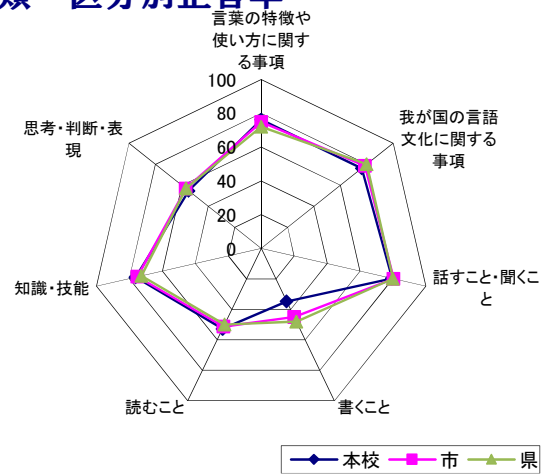
●「自分には、よいところがあると思う。」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」という質問の肯定的回答の割合が低かった。失敗したり、間違えたりしても大丈夫だという雰囲気をつくり、何事にも挑戦していける場を設けていく。



宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使いに関する事項 | 76.2 | 74.8 | 72.0 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項 | 76.2 | 78.6 | 79.9 |
|     | 話すこと・聞くこと      | 79.4 | 80.4 | 80.0 |
|     | 書くこと           | 34.7 | 45.1 | 48.0 |
|     | 読むこと           | 52.7 | 51.3 | 50.0 |
| 観点  | 知識・技能          | 76.2 | 75.2 | 72.8 |
|     | 思考・判断・表現       | 54.9 | 57.0 | 57.0 |



★指導の工夫と改善

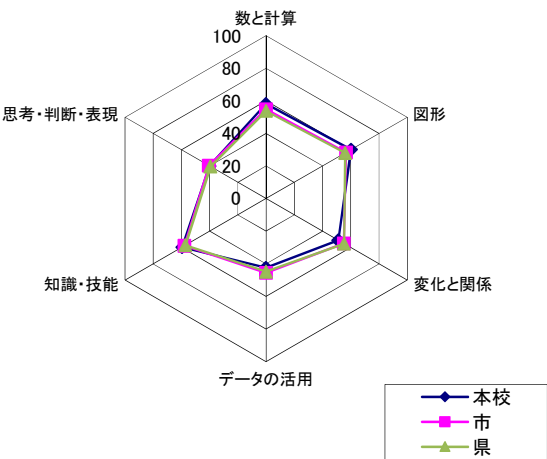
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                      | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                             |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使いに関する事項 | 平均正答率は県の平均を4.2ポイント上回っている。<br>○漢字の書き取りについては、県の正答率を大きく上回っている。<br>●文中における修飾と被修飾の関係を捉える問題については、正答率が69.8%であり、県の平均率より下回っている。                                      | ・修飾と被修飾の関係については、文法の授業やワークシートやAIDリルなどの練習を通して理解を深めていく。また、文章を読み解く中で取り上げて指導したり、文を書く活動でより詳しく書くための工夫を考えさせたりするなどして定着を図る。                                                                                    |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は県の平均を3.7ポイント下回っている。<br>●慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかを考える問題の正答率は、76.2%であった。                                                                         | ・慣用句に興味をもてるような工夫をするとともに、慣用句を使った文の意味を考えることや短作文を作成することで自分の表現に生かせるような活動を行い、言語感覚を豊かにしていく。                                                                                                                |
| 話すこと・聞くこと      | 平均正答率は県の平均を0.6ポイント下回っている。<br>○自分の立場を明確にして、選んだ案の良さを伝える問題では、83.3%であり、県の平均正答率を上回っていた。●参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く問題の正答率は、61.9%であった。                         | ・国語の授業だけでなく、他教科や学級活動等の話し合いの中で、話し方、聞き方の指導を引き続き行っていく。また、話し合い活動を通して、司会者の経験や、互いの意見を聞き、まとめていく経験を重ねられるような場面を設定していく。                                                                                        |
| 書くこと           | 平均正答率は県の平均を大きく下回っている。<br>●自分の意見を書く問題については、非常に低く課題が見られる。また、すべての項目において無回答の割合が3割であったことも課題である。                                                                  | ・作文指導では、必要な資料を集めて整理し、文の構成を組み立ててから書き始めるという段階を踏みながら、書くようにする。<br>・日ごろから授業のまとめ等で、使う言葉や字数を制限したまとめや振り返りを書く機会を設ける。<br>・文章を書きやすくするための手立てとして、ICTを活用する。資料を見ながら自分の意見をまとめることが苦手なので、社会や理科で資料をもとに自分の考えを書く活動を取り入れる。 |
| 読むこと           | 平均正答率は県の平均を2.7ポイント上回っている。<br>○叙述を基に段落相互の関係を捉えることができるかどうかを考える問題では、県の正答率を10.3ポイント上回っている。<br>●登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像し、指定された字数で記述する問題の正答率は、県の平均より0.9ポイント下回っている。 | ・普段の授業の中で物語や説明文を読む際に内容の読み取りを丁寧に行い、文章読解力を高める。また、ICTツールを取り入れることで、読み取った自分の考えを表現する場を増やし、友達との交流を通して、自分の考えを深められるようにする。<br>・今後も司書教諭と連携し、多くの本に触れる機会を設け、児童が自ら本を読みたくなるような環境を作る。                                |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 58.1 | 54.9 | 53.7 |
|     | 図形       | 60.1 | 56.6 | 56.1 |
|     | 変化と関係    | 51.2 | 55.1 | 55.2 |
|     | データの活用   | 42.4 | 45.5 | 44.8 |
| 観点  | 知識・技能    | 59.5 | 57.8 | 57.2 |
|     | 思考・判断・表現 | 40.0 | 40.6 | 39.5 |



★指導の工夫と改善

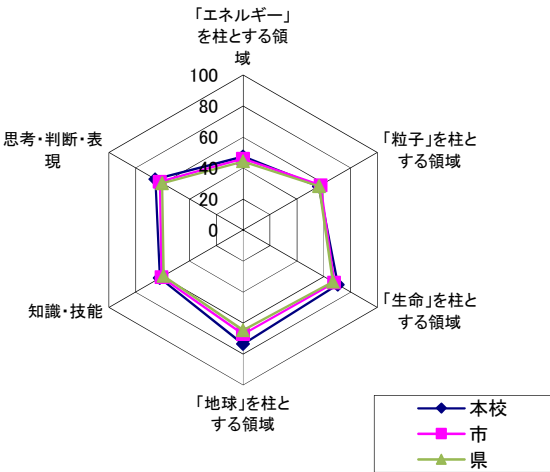
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                          | 今後の指導の重点                                                                                                                                |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は県の平均を4.4ポイント上回っている。<br>○大きい数や小数、分数のしくみに関する問題では、県の平均を上回っており、基礎的な内容の定着が見られる。かけ算やわり算、分数の計算では、県の平均を上回り、計算の力が高まっていると考えられる。<br>●除法の性質を利用した計算の工夫について説明する問題の正答率は23.8%で県の平均より高いものの、正答率が低く、課題が見られる。 | ・仮分数、帯分数などの算数用語の意味を正確に理解できるよう指導する。<br>・概数を使って目的に応じて見積もる問題の正答率が低かった。概数の計算の習熟だけでなく、計算の仕方の説明を実際を書く機会も設け、説明する力を高めていく。                       |
| 図形     | 平均正答率は県の平均を4.0ポイント上回っている。<br>○立体の辺と面の位置関係を求める問題では、県の平均をおよそ19ポイント上回っている。180度より大きい角の大きさを求める問題では、県の平均をおよそ7ポイント上回っている。<br>●平行四辺形の作図の問題では、県の平均より6.0ポイント下回り、課題が見られる。                                  | ・コンパスの使い方を理解させ、作図をする機会を意図的に設けることで定着を図る。今回、複合図形の面積の求め方について出題されていた。2年生の掛け算でも同じ考え方を用いて計算をする学習がある。低学年の段階から、言葉や式を使って説明できるような活動を適宜設けていく。      |
| 変化と関係  | 平均正答率は県の平均を4.0ポイント下回っている。<br>●全ての問題において県平均と同じか下回っている。特に伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、県の平均をおよそ8ポイント下回っている。                                                                                             | ・言葉で説明する部分の正答率が低く見られた。比例の関係の設問では、授業において文章を読み取って式に表す機会を設定する。また、比べ方については、差を用いる場面と割合を用いる場面について、何がどれだけ値上がりしているのかを図などを用いて想像し、文章を読み取る力を着けていく。 |
| データの活用 | 平均正答率は県の平均を2.4ポイント下回っている。<br>○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取る問題では、県の平均を3.5ポイント上回っていた。<br>●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する問題では、正答率が7.9%と課題が見られる。                                                            | ・表やグラフの読み取り方の定着が課題である。社会科をはじめとした他教科においても表やグラフを読み取る機会を意図的に設けることで、必要なことや傾向を読み取る力を高めていく。                                                   |
|        |                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                         |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 47.4 | 46.0 | 44.3 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 56.3 | 57.7 | 56.6 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 70.5 | 67.8 | 66.9 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 73.6 | 67.2 | 64.6 |
| 観点  | 知識・技能          | 62.1 | 60.8 | 59.2 |
|     | 思考・判断・表現       | 65.4 | 62.1 | 60.4 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                        | 今後の指導の改善                                                                                                                                     |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 平均正答率は県平均を3.1ポイント上回っている。<br>○電流が同じ大きさの回路を選ぶ問題では、正答率が56.4%と、県の平均正答率よりも14.3ポイント上回った。<br>●簡易検流の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことへの理解が29.4%と不十分であった。                               | ・実験の結果からどんなことが言えるのかを話し合ったり、図や絵で自分なりにまとめたりする学習活動の時間を確保することで、理解を深められるようにする。<br>・実験器具の扱い方について、実演する様子を見せたりICTツールを活用して動画を視聴することで、理解を定着させられるようにする。 |
| 「粒子」を柱とする領域    | 平均正答率は県平均を0.3ポイント下回っている。<br>○空気と金属をあたためたときの体積の変化の大きさを比べて答える問題では、平均正答率が77.0%と県の平均正答率よりも6.1ポイント上回った。<br>●金属をあたためたときの体積の変化について、身近な出来事と関連付けて考える問題については、平均正答率が28.6%と理解が不十分だったと考える。 | ・実験がある単元の学習の導入では、実験の結果を予想する時間や、意見を交流する時間を十分にとる。<br>・実験の予想と結果をもとに、身の回りの事象に目を向け、日常生活の科学事象に対する興味関心を高めていく。                                       |
| 「生命」を柱とする領域    | 平均正答率は県平均を3.6ポイント上回っている。<br>○季節ごとの動物の活動についての問題では、85.7%と県の平均正答率よりも、12.1ポイント上回った。<br>●季節の順に並べたイチョウの記録を選ぶ問題では、32.5%と県の平均正答率を4.7ポイント下回った。                                         | ・自然環境豊かな地域性を生かして身の回りの自然に目を向け、自然事象への興味関心を高めていく。<br>・学習の時間の中でなかなか目にすることができない自然の事物や事象については、ICTツールを活用する。                                         |
| 「地球」を柱とする領域    | 平均正答率は県平均を9.0ポイント上回っている。<br>○星の動きと星座の正しいならび方を答える問題では、74.6%と県の平均正答率を11.0ポイント上回った。<br>●星の色について、結果から読み取る問題では、54.8%と理解が不十分だったと考えられる。                                              | ・星の動きなど目では見えにくい事象については、ICTツールや図書資料・映像資料を多く活用し、内容についての定着につなげていく。<br>・実験器具の使い方や方位など知識の定着については、AIドリルを活用したりその場でペアやグループでやりとりさせたりして、定着を図る。         |



## 宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

#### 学習への興味について

○「社会の授業の内容はよく分かりますか。」「社会の学習は好きですか。」「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」「歴史上の人物やできごとをあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ。」「の肯定的回答の割合が県を上回っており、社会科への興味・関心が高く、工夫して学習に取り組む姿勢が伺える。

●「理科の授業の内容はよく分かりますか。」「理科の学習は好きですか。」「しょう来的のために大切だと思いますか。」「の肯定的回答の割合が県を下回っている。予想を立てたり考察をしたりと、自分の意見をもつ活動に対し苦手意識をもっている児童が多いことが考えられるため、学級や学年全体で安心して自分の意見を伝え合ったり表現したりできる交友関係や環境づくりに努める。さらに、日常生活から自分の考えをまとめたり、表現したりする機会を設けて支援していく。

#### 授業の様子について

○「授業を集中して受けている。」「の肯定的回答の割合が、県の平均を5.1ポイント上回っており、授業者の話を主体的・意欲的に聞いて授業に取り組むことができていると考えられる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「の肯定的回答の割合が県の平均を8.2ポイント下回っている。今後は、互いの意見を認め合える環境づくりに学級や学年全体で努めていくとともに、授業中だけでなく普段の生活から自分の考えや意見を相手に伝える機会を設けることで、自分の考えや意見を表現することに対する苦手意識を減らしていくようにする。

#### 家庭学習について

○読書についての質問では、平日の1日当たりの読書の時間が「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の割合が県の平均より6.9ポイント高い。読書に意欲的に取り組む姿勢や、読書活動に親しんでいることが考えられる。しかし、1か月に読む本の冊数については、「11冊以上」「5～10冊」「3～4冊」と回答した児童の割合が県の平均と比べて低い。今後も図書室との連携を図り、学年の実態に合った図書の選定やおすすめの本紹介を行うとともに、国語の学習では意味調べ等の時間を設定して語彙力の向上に努めるなど、読解力と読む速さを高める手立てを考え実践していきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」「の肯定的回答の割合が県の平均より4.1ポイント低かった。今後は、年度当初だけでなく、学習指導で各家庭に示している家庭学習の手引きを定期的に児童と確認し、家庭学習の内容の例を提示するなど、自分で計画・実施できるよう支援していく。

#### 生活の様子と学習の関係について

○「家の人と学習について話をしている。」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」「自分には、よいところがあると思う。」「の肯定的回答の割合が高い。このことから、保護者は児童の学習に高く関心をもち、積極的に関わる姿が伺える。また、児童は家庭での生活に安心感と充実感をもって過ごしていると考えられる。今後の学校生活においても、家庭と連携しながら、児童が自信をもち、高い自己肯定感を引き続き維持できるように努めていきたい。

## 宇都宮市立豊郷中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                             | 取組の具体的な内容                                                                              | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                        |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「書く」「話す」活動を意図的に取り入れ、自分の考えを表現する力の向上 | ・根拠や理由を明らかにし、順序だてて端的に話したり書いたりする指導を行っている。<br>・授業以外の日常活動や、家庭学習等でも、自分の考えを表現する活動の工夫を行っている。 | 「書くこと」に関しては、学年差が大きく表れる結果であった。4年生は、条件に合った文章の長さや段落構成で自分の考えを書く問題が県の平均を大きく上回っている。「話すこと」に関しては、4・5年生ともに、自分の立場を明確にして考えを伝えられるものの、話し合い活動の司会の役割について課題が見られた。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                  | 重点的な取組                            | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教科に関する調査結果から、どの教科においても、自分の知識を活用し、自分の考えを書く・発信する問題において、県平均よりも低い結果であるものがいくつかあった。 | 基礎・基本を活用し、自分の考えを言語化し、相手に発信する活動の充実 | ・個の考えを表現する活動の時間を十分に確保する。（「じっくり」の活動を充実させる。）<br>・資料をもとに分かることを考察し、書いたり話したりする活動を学年の発達段階に応じて実施し、スモールステップでの向上に努める。<br>・自分の考えを発信する活動を他教科でも取り入れ、自分の役割を明確にし、話し合い活動を充実させる。 |